

疲れたら、ちょっと戻れる場所

「じゃあ、理科の授業いつてきます」「はい、いつてらっしゃーい」
4月下旬、愛知県岡崎市立矢作中学校の教室で、授業の時間に合わせて生徒が出入りしていた。ここは、集団生活が苦手といった理由で通常学級に通いづらいつの子のための校内フリースクール「F組」だ。2年生のナオキさん(13)が理科の授業を受けるために向かった先は、通常学級だった。

「一つひとつの物事を重く感じがち」と、自分の性格を表現する。通常学級で大人数がわいわいしている中に身を置くと、体が重くなるという。

毎朝登校すると、荷物をF組に置いて、自分の通常学級に向かう。3限目や4限目、「疲れたな」と感じたら、通常学級の子に「ちょっとF組行ってくる」と告げて、戻ってくる。

F組は「縛られている感がなくて、気持ちに楽になる」場所だ。みんなとカードゲームや運動をして過ごし、再び通常学級へ。「クラスもF組もそれぞれ良さがある。行き来するのが正しい使い方のかなと思うってます」

矢作中のF組には現在約10人が登録している。小学校から不登校傾向があり、F組だけに月数回登校する子。通常学級に通いながらF組

を利用する子。それぞれのやり方で通っている。

ナオキさんは小学6年生の頃から岡崎市が設置する校外の適応指導教室に通った。矢作中に進学し、「リセットされた」という思いで通常学級に通ったが、「行かなきゃという気持ちが先走って、疲れちゃった」。F組に通い始めた。

中1の終わりが見えてきた頃、自分で目標を立てた。

「通常学級と行き来できるようにする」。より大人数と関わる経験を積みたいと思ったからだ。学習で追いつくため、両親に頼んで家庭教師をつけてもらった。通常1年かけて取り組むテキストを3カ月で解いた。

この4月の始業式。自宅から学校までの15分の足取りは重かった。不安でいっぱいだった。勉強についていけないか。友達ができるか。「心配すぎて死にそうでした」と笑う。

1カ月経ち、英語は難しいが、数学はついていけそう。両親からスマートフォンを買ってもらい、クラスのLINEグループにも入った。クラスメートとおしゃべりが楽しい。ナオキさんは言う。「今は『つらかったらF組がある』っていう安心感があるのが全然違います」

|| カタカナ名は仮名
(柏樹利弘)



F組の教室で、テキストを解いて自習するナオキさん